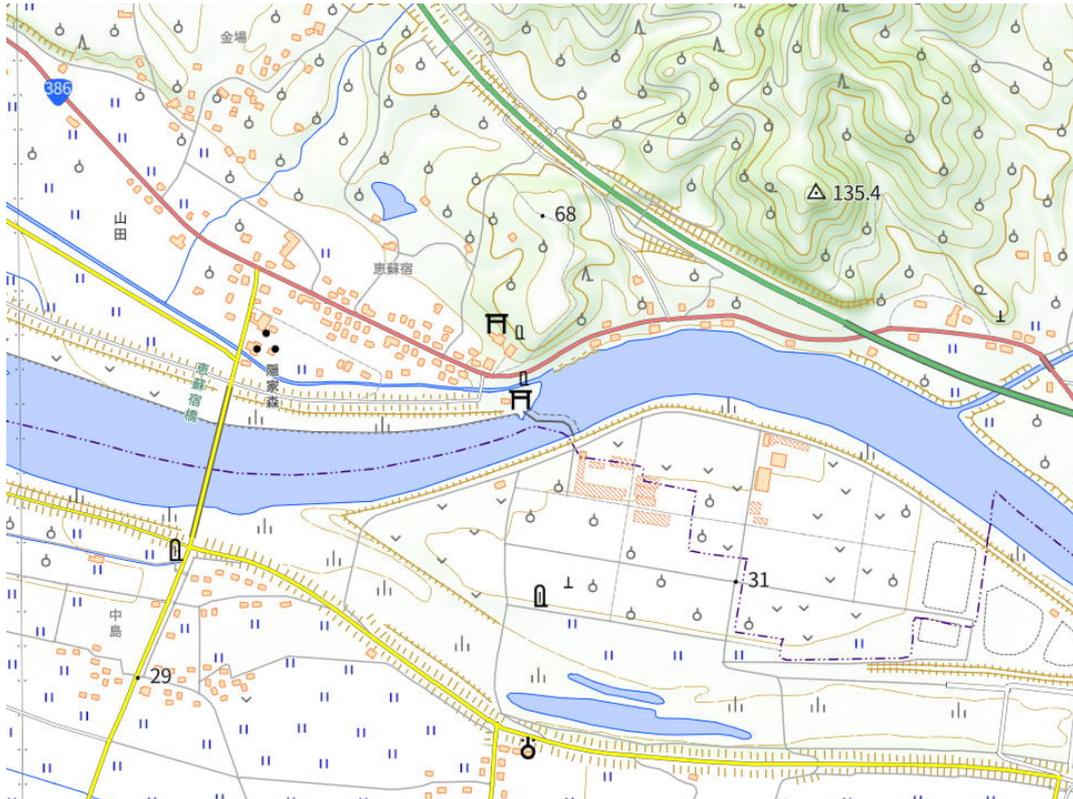


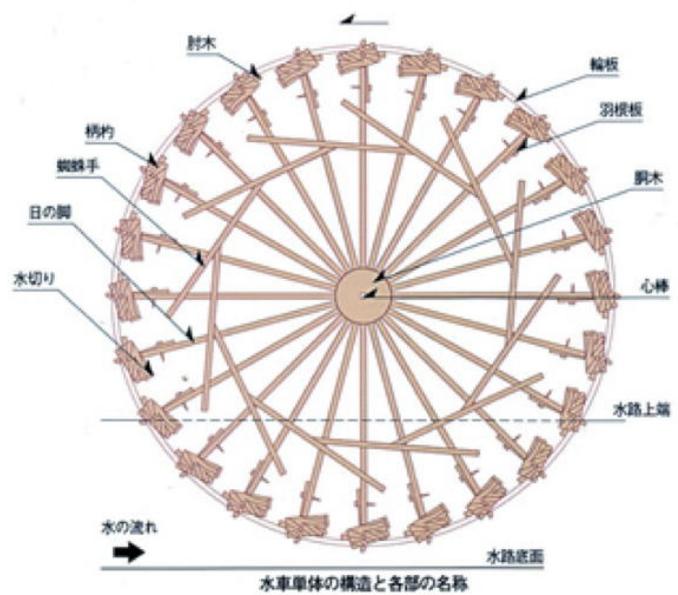
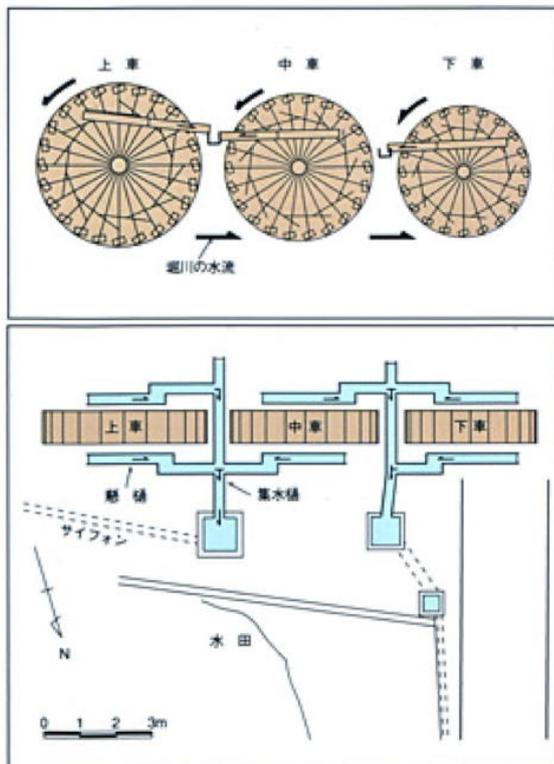
水利用の歴史と技術 1：用水路の風景 【寄藤 昂】

山田堰 日本で唯一の「傾斜堰床式石張堰」、福岡県の筑後川中流部朝倉市の山田堰

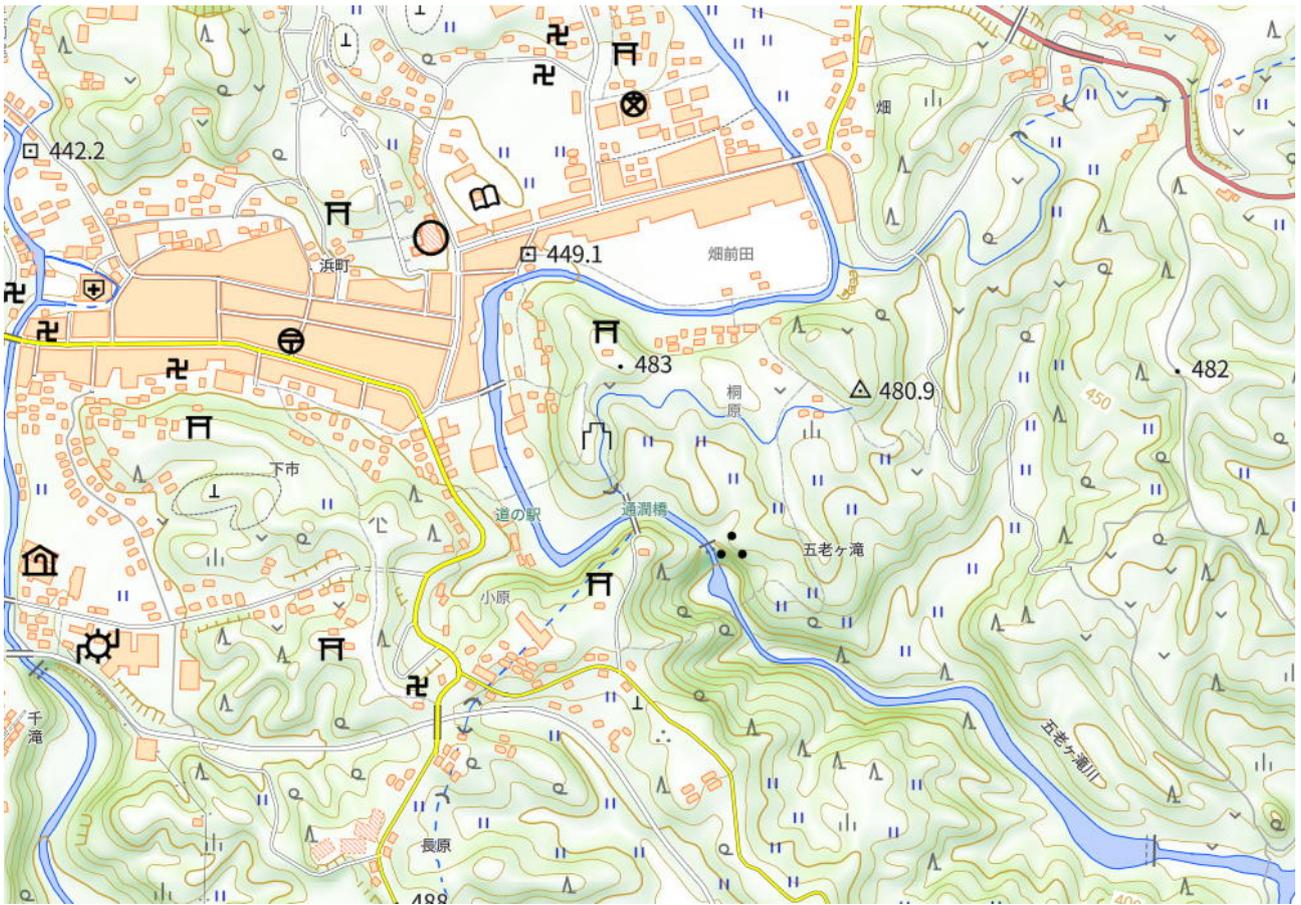
なぜペシャワール会のHPに山田堰が登場するのだろうか。それは、人力主体で築造できて、地元の "普通の 人々" だけで維持管理できる「堰」だったから。江戸時代に造られた「堰」が今でも輝いている。



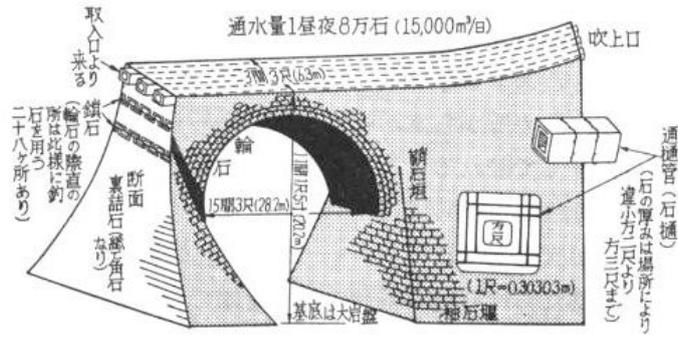
朝倉三連水車 水を揚げるという水車の仕事



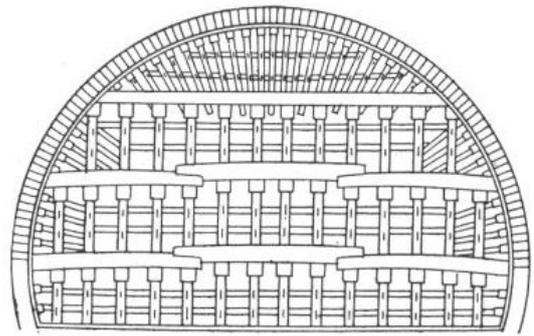
通潤橋 石工と金掘りが新田開拓を支えた



熊本城石垣の秘法を応用したといわれる
鎖石と特別に空の長石垣石
この構造が橋の曲線を美しく出している

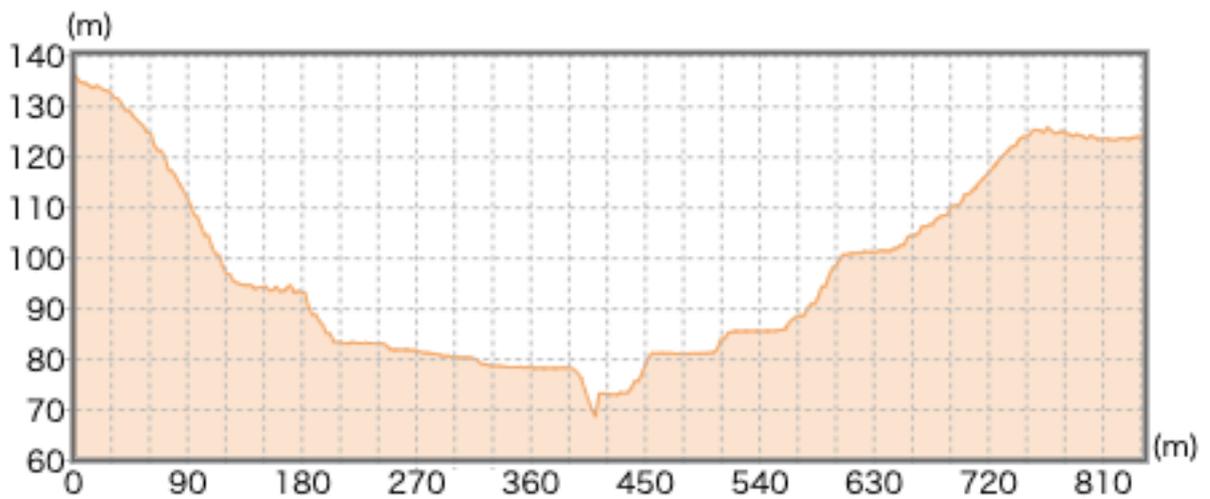


通潤橋の解剖図



通潤橋支保工設計図

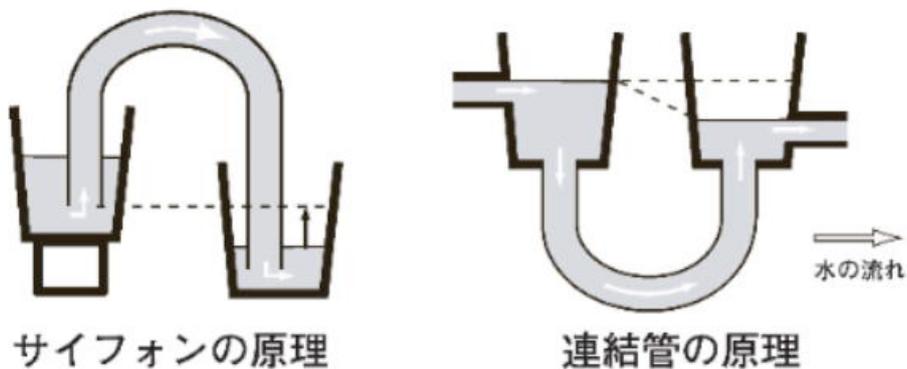
御坂サイフォン 水は谷を越えて噴き上がる





御坂水路橋 正確には「サイフォン」ではない、という件について

パーマーらの関係者が最初から使っていたのは「逆サイフォン」という言わば文学的な表現で、決して土木工学上の専門用語としてではなかった。それがいつの間にか科学技術用語と誤解され、さらに「逆」が取れてしまったということらしい。いずれにせよ、御坂も通潤橋も水理的にはサイフォンではなく、南荳が指摘する通り「連結管」であることは間違いない。



御坂サイフォンの長さと表記に関する一考察（南荳猛, 2011）